

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第8号（通算 80 号）
令和 2 年 12 月 18 日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



外国語指導力向上研修 大崎学園

オンライン説明会から感じた新たな可能性

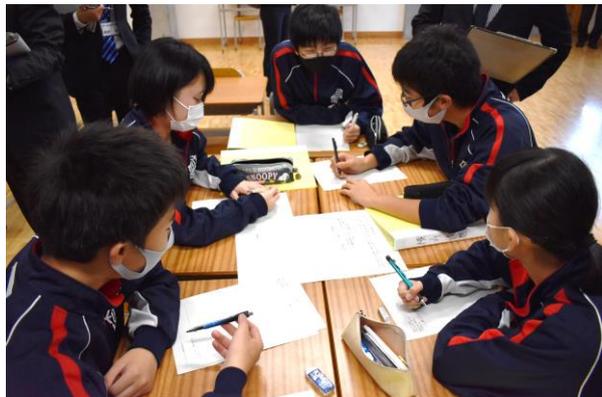
小中一貫教育推進課 指導主事 桐生 太

今年度、校務支援システムのサーバー更新に伴い、グループウェアが新しくなることから、システム業者及び情報管理課と連携したオンライン説明会を実施しました。Zoom を用いて各学校の職員室のパソコン 1 台につなげ、それをプロジェクター等で映し、教職員がその映像を見ながら個々のパソコンを操作するという形式でした。ネット上の負荷を考慮して市立学校を 3 つのグループに分け、11 月第 2 週の 3 日間に渡って説明会を実施することができました。各学校の御協力に改めて感謝いたします。

オンライン説明会を通して、この形式は別な場面でも利用できないかという期待をもちました。今回、ネット上の負荷は心配していたよりもかからず、28 か校全てに一斉につなげることも可能と分かりました。これは、市内全教職員の一斉研修会や緊急時の連絡等にも利用できそうです。また、体育館に児童生徒が集合し、全学校がオンラインでつながったり、学園間の学年・学級単位での交流などにも利用したりできると思います。このように考えていくと、様々な発想が生まれてきます。

現在は感染症対策のため、これまで行ってきた教育活動の制限が余儀なくされている状況ですが、各学校ともここまで様々な工夫を凝らし、充実した教育活動を展開していただきました。是非、今後とも児童生徒とアイデアを出し合い、一緒に考え工夫しながら、新たな可能性を探っていっていただきたいと思います。

防災教育授業研修会(大崎学園)



11月17日(火)大崎学園を会場に、防災教育授業研修会を開催しました。今年度は保護者参観を行わないことにし、各校から教職員のみの参加としました。当日は、2年生、6年生、8年生の各1学級が、新潟県防災教育プログラムを活用した授業を公開しました。

2年生は、雪災害をテーマに学習しました。積雪時の通学路に潜む危険について、写真を基に話し合う活動を通して、積雪時の通学路の危険を理解し、危険から身を守るための対策を考えました。

6年生は、原子力災害をテーマに学習しました。原子力災害が起きた時の行動の仕方について考え、話し合う活動を通して、原子力災害が起きた時の屋内避難の方法について理解し、どう行動したらよいかを考えました。

8年生は、地震災害をテーマに学習しました。「大人がいない時に大きな地震が発生したらどう行動するか」を学習問題として、地震発生時における危険性を理解し、仲間と遊んでいるときに大きな地震が発生した場合の避難行動について話し合いました。

どの授業においても、知識としての防災教育だけでなく、「どう身を守るか」、「どう行動するか」を考え、「自らの命を守る行動」ができるように取り組んでいました。

授業公開後、教職員を対象に、三条市防災対策総合アドバイザーを務める、東京大学大学院情報学環特任教授の片田敏孝様から「荒ぶる災害への向かい合い方～育みの環境から考える～」という演題で御講演をいただきました。

講演では、近年の気象変化による豪雨多発や台風の凶暴化の実態を踏まえ、「自らの判断で避難行動をとることの重要性」について話がありました。また、避難の3原則「想定にとらわれない・最善を尽くせ・率先避難者たれ」を基に、地域の一員として行動し「地域みんなで助かる」避難行動の重要性についても話がありました。

講演の最後に、脅しの防災教育(ここは危険なんだ)をしていると「危ない町はいやだな」となってしまう、自然の恵みを享受することは自然の災いに近づくことである、そして、「大いなる自然の営みに畏敬の念を持ち、行政に委ねることなく、自分の命を守ることに主体的たれ」というまとめをいただきました。

講演を通して、命を守る教育について考えるとともに、三条市の自然を理解し、地域に誇りをもって生きていくことの大切さについて考える時間にもなりました。

参会者にとって、防災意識の浸透した三条市、災害に強い三条市を目指す気持ちを新たにすする研修会となりました。

授業における ICT 機器の活用法

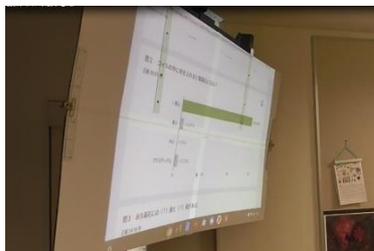
ICT 教育推進モデル校の一ノ木戸小学校の実践における「授業における ICT 機器の活用法」について、いくつかの実践から紹介します。今年度 2 月末には、各校に一人一台タブレット PC 端末が整備されます。活用の際の参考にしてください。

「スタート・ラーニング」

本時の学習内容に関する問題を「G Suite for Education」の「Forms」機能を用いたミニテストに児童が取り組む。(理科「電磁石のはたらき」)



一人一人がタブレット PC 端末を活用して回答していきます



回答はリアルタイムで集計されていきます。



正答率の低かった問題等について全体で確認します。

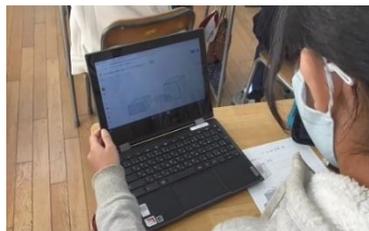
学習課題

本時の課題を全体に提示するとともに、Classroom を使って個々のタブレット PC 端末に配信する。(算数科「体積」)

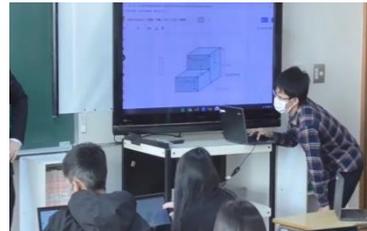


対話（特に解決活動）①

問題解決場面で、タブレット PC 端末を操作しながら自力解決し、考えを交流する。(算数科「体積」)



タブレット PC 端末を操作し、複合立体を分解するなどして体積の求め方を考えます。



タブレット PC 端末の画面を見せながら隣の仲間に説明したり、全体の場で説明したりします。

対話（特に解決活動）②

問題解決場面で、班で話し合い、考えを入力して送信する。(理科「みずの 3 つのすがた」)



時刻	水温	様子	水温と様子
0	25	くもって来た	
7	31	雲が少し	
4	34	少し泡	
6	39	少し泡	
8	49	泡が増えて来た	
10	59	泡が増えて来た	
12	69	泡がたくさん	
14	76	大量の泡	

班にタブレット PC 端末を 2 台配り、1 台は映像記録、もう 1 台は温度変化や様子の変化のスプレッドシートへの記録に使用します。

送信されたスプレッドシートの班ごとの記録を全体で共有し、沸騰までの温度と様子の変化についての考察を行います。

対話（特に解決活動）③

グーグルドライブ上でビデオを共有する。(音楽科「リコーダー」)



リコーダー楽譜の自動演奏ビデオ等で作成。階名や速度、タイミングを視覚的に捉えることで、グループで対話しながら練習を行うことができます。

この他にも、ICT 機器を授業等の様々な場面において活用することで、児童生徒の学習意欲の向上と思考力・判断力・表現力の一層の育成が期待できます。今後も ICT 機器の有効な活用方法や成果について、発信していきます。

学習習慣の定着へ 学びのマルシェ

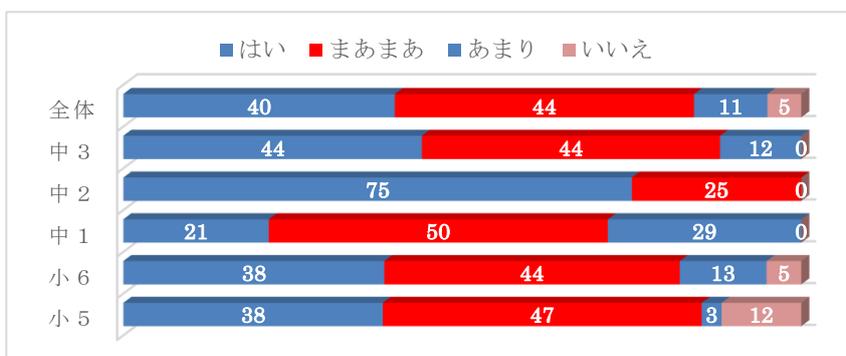
さんじょう一番星育成事業「さんじょう学びのマルシェ」も、今年で7年目に入りました。10月末に行ったアンケート結果から、学びのマルシェを通じて家庭学習の習慣化が図られていることが分かりました。

学びのマルシェに参加して、以前よりも家庭学習をするようになりましたか。

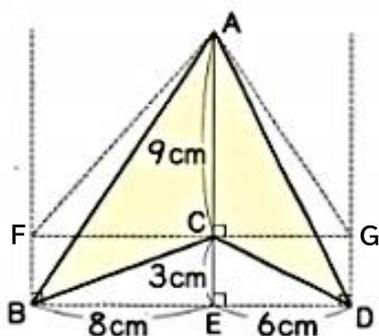
中2が突出して高い数値を示していますが、全体平均で84%の児童・生徒が、家庭学習をするようになったと答えています。

受講している児童・生徒からは、「家庭学習を自分から進んで学習できてよかった。(小5)」「家での自主学習に毎回

取り組めるようになった。(小6)」、「以前よりも学習への意欲が高まった。(中3)」など、学習習慣の定着に向けた声がたくさんありました。学校でも、受講している児童生徒への励ましや賞賛をしていただけると幸いです。



小中のつながいを考える ～算数・数学重点教科研修から～



12月4日(金)に瑞穂学園で算数・数学の重点教科研修を実施いたしました。学園では、当初、乗り入れ授業を予定していましたが、今回は乗り入れを中止とし、月岡小学校の5年生の単独授業としての実施です。

本時では、一生懸命で反応のよい子どもたちのつぶやきや発言を担当が上手に活かしながら、素晴らしい授業を展開していました。

小中一貫教育を推進するにあたり、各校で交流活動などが盛んに行われています。これにより、小学校と中学校または前期課程と後期課程などの児童生徒の絆が深まり、中学校への進学に対する不安感が取り除かれます。交流にとどまらず、小中のつながりでは、カリキュラムでのつながりも大切にして欲しいです。カリキュラムがつながるといことは、学力の向上につながります。

月岡小学校では、上の図形の面積を求める学習を行いました。小学校では、三角形ABDから三角形CBDの面積を引いたり、三角形ABCと三角形ACDの面積を足したりして四角形ABCDの面積を求めます。この他に、もう一つ、三角形AFGに変形させて面積を求める方法があります。本時では、この解き方に挑戦をしていました。中学校2年生で、平行線と面積の定理を学習します。小学校5年生の段階でも、底辺と高さが同じであれば面積は同じであることは学習します。中学校へのつながりを考えたとき、小学校では、底辺と高さが同じ図形は面積が同じであることを確実に押さえる、または、意識付けることが大切であると言えます。こうした学習を確実に積み重ねることが、中学校での学習の分かりやすさにつながり、ひいては学力の向上となります。

学習のつながりを考えて、どこに重点をかけるか、どんなふうに授業改善をするかということをお中の教職員が共に考えることが大切です。是非、小中のつながりを考えて重点付けをするなどし、小中がカリキュラムでつながって欲しいと思います。